

日本情報科教育学会第6回全国大会を終えて

第6回全国大会実行副委員長 坂田 圭司（東海大学）

1. はじめに

日本情報科教育学会（JAEIS）は、第6回全国大会を東海大学高輪キャンパス（東京都港区）において、2013年（平成25年）6月29日（土）、30日（日）の2日間で開催いたしました（写真1）。

高等学校「情報科」がスタートして10年、本学会が設立して5年が経過しました。この節目の年に、第6回全国大会のテーマを、「新たな情報科教育の発進」として、情報科を通して日本を変えろという大きな目標への再出発の場と位置付けました。

本大会では、高等学校での新学習指導要領の実施に合わせて、情報科教育に携わる多くの教育研究者、教育実践者さらには企業の方々の参加・発表を募り、情報共有と議論の場を形成することを目的としました。



写真1 東海大学高輪キャンパス

2. 大会概要

会期の2日間を通じて、延べ約400名の参加があり、各講演・発表・ディスカッションにおいて、活発な意見交換が行われました。講演・発表件数は次の通りです。

基調講演：1件、招待講演：2件、
研究発表：56件、ポスター発表：10件、
デモンストレーション：5件

本大会は、東海大学との共催で、大学関係者の多大な協力と会場利用料の減免を受けて開催されました。東海大学高輪キャンパスは施設が新しく、品川駅や地下鉄各駅からの接続が良好で、会場に関しては参加者の方々から大変なご好評を頂きました。開催校として嬉しく感じております。

本大会の後援および協賛は次の通りです。

後援：文部科学省、総務省、経済産業省、東京都教育委員会、全国専門学科「情報科」高等学校長会、全国高等学校情報教育研究会

協賛：情報処理学会・初等中等教育委員会、情報処理学会・コンピュータと教育研究会、日本教育工学会、教育システム情報学会、電子情報通信学会・教育工学研究会、情報コミュニケーション学会

大会会場での企業展示は12件、講演論文集への企業広告は9件を頂きました。

3. 基調講演・招待講演

基調講演は、本学会会長の岡本敏雄先生（京都情報大学院大学／電気通信大学eラーニングセンター）が「教科『情報』とデモクラシ」をテーマに、歴史的な視点と国際的な知見をもとに、これからの情報科教育のあり方について話されました。

招待講演1では、新井孝雄氏（文部科学省生涯学習政策局参事官）が「情報科教育と教育の情報化について」をテーマに、グローバル人材育成の一環として、児童生徒の発達段階に合わせたICT活用能力の習得を目的に、新たな段階に入ったICT環境（タブレット、デジタル教科書・教材等）の活用を中心に講演されました。

招待講演2では、村井純先生（慶応義塾大学環境情報学部）が「サイバースペース時代～情報教育の役割～」をテーマに、“After Internet”において、グローバル時代に通用する子どもを育てるために、日本の情報教育では何をすべきかについて講演されました。



写真2 基調講演（左上）、招待講演1（右上）
招待講演2（左下）、講演会場全景（右下）

4. 研究発表

研究発表は1件15分間（口頭発表10分間＋質疑応答）で、1日目および2日目の午前中にA～Cの3会場において実施しました（写真3）。

セッションは、「カリキュラム・教材」、「情報科の考察・評価」、「教育の情報化」、「情報の科学」、「社会と情報」、「プログラミング」、「教員養成」、「高大連携」に分けて行いました。

新学習指導要領の開始に伴って、新たな試みを

研究対象とする発表が多く、各会場とも立ち見が出ることもあり、質疑応答では活発なやりとりが見られました。



写真3 研究発表会場の様子

5. ポスター発表、デモンストレーション

デモンストレーションは、第5回全国大会から始まった新しい形式で、発表時間（1件3分間）の後に、発表者と参加者が共に展示スペースへ移動して、実演と意見交換を行うものです（写真4）。今回は、スピーディな発表とバラエティに富んだ展示によって、大変な人気を集めました。アンプラグドや実習方法のアピールには非常に有効な手段だと感じました。デモンストレーションの展示時間と、ポスター発表のコアタイムを同じにして、参加者の動線を上手く設定したのも効果的でした。



写真4 デモンストレーション展示の様子

6. パネルディスカッション

パネルディスカッションは、「情報科の役割と社会で求められる基礎的な力」をテーマとし

て、2日目の午後に大会の締めくくりとして開きました。座長は、小泉力一先生（尚美学園大学）、パネリストは、永井克昇氏（文部科学省初等中等教育局視学官）、駒谷昇一氏（株式会社NTTデータ技術開発本部）、片岡晃氏（独立行政法人情報処理推進機構（IPA）IT人材育成本部）、坂田圭司（東海大学情報教育センター）、遠藤陵二先生（東海大学付属浦安高等学校）で、各パネリストの発表後にディスカッションを展開しました（写真5）。

グローバル時代に必要な力を身に付けるには、情報科教育が重要な要素の1つであり、高等学校・大学・社会の間で、情報共有かつ連携した学習を推進していくことの重要性を改めて認識しました。



写真5 パネルディスカッションの様子

7. 大会運営における試み

本大会では、準備段階および大会当日において、下記の技術的な試みを実施しました。

①全国大会実行委員会でのクラウド活用

電子メールに加え、ファイル共有サービスやWeb会議システム、CMSを利用して、情報共有と作業分担の効率化を図りました。実行委員が全国に散らばっているのが効果的でした。

②会場内での無線LANルータ利用

教育機関ではネットワーク利用に関してセキュ

リティポリシーが厳しく、全国大会や研究会での利用が制限される例が多くあります。本大会では、WiMAXの無線LANルータで各発表会場の登壇者、企業展示、大会運営で全面的に利用しました。上記条件下では十分実用範囲であることが確認できました。

③講演および研究発表のライブ配信

基調講演および招待講演では、UStreamによるライブ配信実験を行いました。また、会場内限定で、研究発表の様子をWeb会議システム（WebEX）で配信しました。今後、研究会等での利便性向上の手段として有効性を確認しました。



写真6 WebEXによる研究発表のライブ配信

8. まとめ

近年はパソコン中心の時代から、「マルチプラットフォーム＋インターネット」環境へと急速に移り変わっており、グローバルかつ将来において通用する情報活用能力を習得するには、初等中等教育の段階から系統的な学習が必須です。

本大会の各発表を通じて、授業内容だけでなく、効果的なICT活用、教員の意識とスキルの向上が重要であることを再認識しました。

本学会の全国大会や研究会の情報は、日本情報科教育学会Webサイト（<http://jaeis.org/>）に掲載されています。情報科教育に興味をお持ちの場合は、ぜひご覧ください。

最後に、この場をお借りして、今大会が成功したことを、参加者および関係者の皆様に御礼申し上げます。